



|                  |   |
|------------------|---|
| Title            | 地名の漢字をインターネットで検索する  |
| Author(s)        | 池田, 証寿  |
| Citation         | 国語国文研究, 113, 64(13)-51(26)  |
| Issue Date       | 1999-10-13  |
| Doc URL          | <a href="https://hdl.handle.net/2115/48509">https://hdl.handle.net/2115/48509</a> |
| Type             | journal article   |
| File Information | kokugokokubunkenkyu_113_64-51.pdf   |



# 地名の漢字をインターネットで検索する

池田 証 寿

## 1 調査の目的と経過

JIS 漢字には、「垚(ヌタ)」「圻(ガケ)」など、地名由来の珍しい漢字が採用されているが、これら地名の漢字は、実際どの程度使われているのであろうか。

本稿は、インターネットで公開されている文書(電子テキスト)を対象として、地名由来の JIS 漢字の使用実態を明らかにし、それを通して、JIS 漢字第一次規格(1978年)における字種選定方針の妥当性を検証しようとするものである。

JIS 漢字中の人名・地名用例に関しては、芝野耕司編『JIS 漢字字典』(日本規格協会、1997年、豊島正之・笹原宏之・池田証寿が編集協力)にまとめられたものがもっとも詳細である。人名用例は、NTT 電話帳『ハローページ』(個人名)に記載される人名であり、地名用例は地方自治情報センター『全国町字ファイル』を主とし、国土地理協会『国土行政区画総覧』などで補っている。NTT や地方自治情報センターの資料は、提供を受けた電子ファイルを独自に解析したものであり、JIS 漢字の人名・地名用例の収集はこれにほぼ尽きる。しかし、それらの人名・地名が実際の日本語文中でどの程度用いられているか、特に一般に流通する電子化されたテキストを対象とした調査研究は非常に少ないのである。

人名・地名に関する先学の研究成果が数多く存することは承知しているが、JIS 漢字は電子的なデータとして蓄積・処理されるのが本来のありかたであるから、JIS 漢字の個々の文字について、電子テキストとしてどれだけの使用実績があるかを見るのが極めて重要になってくるのである。

そこで私は、インターネットで公開されている文書を対象に、goo 及び infoseek という検索システムを利用して、地名の漢字に関する調査を開始することにした。調査開始の時期は1997年の春。同じ年の夏には、ある程度のまとまりがついたので、「国土行政区画総覧を唯一の典拠とする漢字をインターネットで検索する」(略称「国土検索」という Web ページ(<http://member.nifty.ne.jp/shiked4/kkd4.htm>)。以下、URL の <http://> は略す)を開設し、収集の用例を公開した。ページ開設直後、岡島昭浩「インターネットで調べる」(『日本語学』16巻12号、明治書院、1997年11月号)で紹介されたが、しばらく調査を中断していた。1998年12月になって調査を再開し、現在に至るまで断続的に収集の情報を公開している。

## 2 共有財産としての JIS 漢字

### 2.1 情報機器で日本語を用いる人すべての共有財産

芝野耕司が『JIS 漢字典』の序文冒頭で述べるように、JIS 漢字は「情報機器で日本語を用いる人すべての共有財産」である。地名の漢字に関する私の調査報告を述べる前に、JIS 漢字が「共有財産」であるという前提を確認しておきたい。

「共有財産」であるがゆえに、JIS 漢字に関する議論がさまざまになされ、批判が噴出し、錯綜した状態を呈している。當山日出夫「コンピュータの文字に対する意識について一錯綜する JIS 漢字論の根底にあるもの一」(『国語と国文学』76 巻 5 号、東京大学国語国文学会、1999 年 5 月)は、比較的最近の論説を要領よく紹介し、それら錯綜した議論の根底に、コンピュータの文字に対する意識の多様化があるとする。當山のいうように、コンピュータを検索用の道具として割り切って使う人と、文章表現のための清書用の道具として厳密さや美しさを期待して使う人とは JIS 漢字に対して期待するものが大きく異なるのは確かである。錯綜した JIS 漢字論の分析が本稿の目的ではないが、そうした議論を見渡して見ても、現に符号化され JIS 漢字として何の問題もなく利用できる字が、具体的な日本語文の中でどの程度有効に使われているかを検証するという着眼点は見当たらないようである。JIS 漢字が「共有財産」であるならば、それが「情報機器を日本語を扱う人すべての共有財産」として有効に活用されていることを、電子テキストを対象に査定する必要があると思うのである。

もっとも、「共有財産」たる JIS 漢字の中身がどのようにして出来上がったかに関する調査研究さえ、1997 年の改正を通してようやく解明されたというのが実状である。そこでは JIS 漢字すべての典拠が徹底的に洗い出され、「弭」(音義未詳)の一字を除いて JIS 漢字第一次規格制定(1978 年)以前の文献に確実な用例があることが確認された。そういう次第であるから、「共有財産」たる JIS 漢字が、その制定以後、(特に電子化された)実際の日本語文においてどのように利用されているかについて検証することは今後の課題というべきことなのである。

### 2.2 『新聞電子メディアの漢字』の成果

ところで、横山詔一、笹原宏之、野崎浩成、エリク・ロング編『新聞電子メディアの漢字一朝日新聞 CD-ROM による漢字頻度表一』(三省堂、1998 年 7 月)は、紙面と CD-ROM データとの綿密な照合により、全漢字の紙面と CD-ROM における頻度・順位を明示した研究であるが、JIS 漢字の問題に正面から立ち向かった成果としても注目すべきものである。電子メディアには思わぬ落とし穴があること、それを実際の紙面(紙メディア)との対比で証明し補ったことなど、大きな特色である。

国語研究所プロジェクト選書の一冊として公刊されたこの書は、最新の JIS 漢字規格(JIS X 0208:1997)で明確化された JIS 漢字の内容やその成立過程に関する研究成果を十分に踏まえており、新聞電子メディアを通して「共有財産」としての JIS 漢字を査定した研究となっている。

私が追求しようとする地名由来の JIS 漢字の使用実態という観点でみると、「『幽霊文字』と『辞書非掲載字』の出現状況」の章は大いに参考になるものである。ただ1年分の新聞紙面という分量は相当に膨大であるが、それでもインターネットで公開される文書（電子テキスト）の量に比べればはるかに少ないであろう。実際、『新聞電子メディアの漢字』に記載のない用例を数多く検索収集できていた。一定の質のデータに基づき漢字頻度表を作成するという目的では『新聞電子メディアの漢字』に示された方法が最善のものであろうが、多様な用例を探索するという点では、新聞よりもインターネットの膨大な文書の方が魅力的である。問題は質の吟味の難しさということになるが、これは地名由来の JIS 漢字という限定された文字を対象とするものであるし、誤字かどうか判断に迷う文字は電子メールによる問い合わせによって内容を確認することが可能である。質の吟味はさほど大きな問題にならないであろう。むしろインターネットの利点をよく生かした調査を実現できる。

### 3 JIS 漢字と『国土行政区画総覧』

『国土行政区画総覧』（国土地理協会、1951年初号）は日本全国の行政地名を大字・小字に至るまで総覧したものである。一般には、あまり知られていないが、1978年に制定された JIS 漢字（JIS C 6226-1978 情報交換用漢字符号系、現在は JIS X 0208:1997 7ビット及び8ビットの2バイト情報交換用符号化漢字集合）では、地名と人名に重点をおいた採用をしている。その地名の典拠となった資料が『国土行政区画総覧』に基づく漢字表である。

JIS 漢字の制定に際して参考にした漢字表は、JIS X 0208:1997 の解説が明らかにしたように、次の4漢字表である。

1. 「標準コード用漢字表（試案）」6086字
2. 「行政管理庁基本漢字」2817字
3. 「日本生命収容人名漢字表」（人名）3044字
4. 「国土行政区画総覧使用漢字」（地名）3251字

『国土行政区画総覧』を典拠とする JIS 漢字については、笹原宏之が詳細な調査・研究を行っている。その成果は、笹原宏之「字体に生じる偶然の一致—「JIS X 0208」と他文献における字体の「暗合」と「衝突」—」（『日本語科学』1、国立国語研究所、1997年4月）、同「「JIS X 0208」における音義未詳字に対する原典による同定—「標準コード用漢字表（試案）」と「国土行政区画総覧」—」（『国語学 研究と資料』第20号、1996年12月）などの論文により知ることができる。その意義を要約すれば、一般の漢和辞典に記載のない音義未詳字を中心にして、誰一人知ることのなかった JIS 漢字の過去を精密に記述したという点において画期的であった、ということになる。

### 4 JIS 漢字をインターネットで検索することの意義

さて、笹原の研究と対比してということが許されるならば、インターネットで『国土

行政区画総覧』を典拠とする漢字を検索することは、JIS 漢字の現在を見ることにほかならない。これを具体的に述べれば、

1. 地名の用例をインターネットの文書(電子テキスト)で確認することにより JIS 漢字当初の目的がどの程度達成されているかを検証できる。〔JIS 漢字の評価〕
2. 地名として採用した JIS 漢字にそれ以外の用法がないかどうかを検証できる。〔用法の分析〕
3. 地名の JIS 漢字の増減の様相を定期的に検索することでインターネットのあり方を検証できる。〔インターネットの研究〕

第一の点について。地名にしかわれぬ漢字であっても、これは日本語を扱う誰もが使用する可能性を持つ漢字である。それらが実際に使用されていることを実証することで 1978 年に第一次規格が出された JIS 漢字の当初の目的が正しいものであったことを確認できる。一方、地名に使われる漢字として JIS 漢字に採用したものの、実際にはまったく利用されていないものが多いということであれば、JIS 漢字を制定した当初の目的は、現代のインターネット時代にそぐわないものになっているということになる。

第二の点について。これは、現代日本語における漢字使用の実態調査という観点から意味が大きいものである。地名由来で JIS 漢字に採録されたものでも、実際には、(1)人名で使用されたり、(2)通常の日本語文脈で使われたり、(3)別の漢字を誤って入力したりといった例を拾うことができる。さらに、予想もしない用法が出現することも期待できる。

第三の点について。これは、インターネットを一つの例として情報化の進展具合を測定する目安になるであろうと考えられる。非常に珍しい地名の漢字であっても、次第に使用例が拡大するということがあれば、それは情報化の進展の、具体的な証拠として評価できる。一方、確実にインターネットで使用されていた地名の漢字が、何らかの事情によりある時期から使用されなくなるということも考えられよう。インターネットは膨大に存在する情報機器をつなぐことで形成される広大な世界であるが、地名由来の JIS 漢字はその広がりや深さを観察する一つの目安となる。

## 5 地名及び人名の漢字表だけから採録された JIS 漢字

### 5.1 JIS 漢字の原典資料

前述のように、JIS 漢字制定時に参照した地名の漢字表は「国土行政区画総覧使用漢字」(3251 字収録、以下「国土」)であり、人名のそれは「日本生命収容人名漢字」(3044 字収録、以下「日生」)である。両者とも『行政情報処理用標準漢字選定のための漢字使用頻度および対応分析結果』(1974 年、行政管理庁行政管理局、以下「対応分析結果」)に基づくこと、規格解説にあるとおりである。

### 5.2 「国土」及び「日生」から採用された JIS 漢字

「国土」及び「日生」の漢字表から採録された JIS 漢字は 268 字である<sup>1)</sup>。そのうち、



## 6.2 山部の用例

- 岩 [54-07] 国土 (頻度無し) (地) (詳説) 岩巻 (ナタマキ・宮城県) / 『JIS 漢字字典』 人名・地名用例あり
  - 代表者 会長 岩網由雄  
【1997年】「千葉県中小企業団体中央会」の代表者の名前。【1998年12月4日】代表者が交代したらしく、「岩網」は見えず。しかし他のページ（「1998～99年株式公開予定企業一覧」）に検索できた。
  - 【1997年】「岩巻」の例は見えない。【1998年12月4日】「岩巻」は未見。
- 岾 [54-12] 国土1 (詳説) / 『JIS 漢字字典』 人名・地名用例なし
  - 「JIS 漢字」に「岾」という字が入っていたという事実が、「JIS 漢字」制定から20年を経て、初めて明らかになった。  
【1997年】幽霊字として有名。【1998年12月7日】確認。笹原宏之「漢字の正確な理解のために―「JIS 漢字」検証結果が訴える、「漢字ブーム」に欠けていたもの―」。
- 帖 [54-19] 国土1官報1 (地) (詳説) 広帖 (ヒロヤマ・京都府) / 『JIS 漢字字典』 人名・地名用例なし
  - 【1997年】「広帖」の例は見えない。【1998年12月7日】文字化けでヒットする例はあるが、実際の用例はない。
- 岨 [54-18] 国土2官報4 (地) (詳説) 芦岨寺 (アシクラジ・富山県) / 『JIS 漢字字典』 人名・地名用例あり
  - 芦岨寺スキー場  
【1997年】芦岨寺スキー場のホームページ。JR 富山駅下車 富山地方鉄道乗換、千垣駅下車、バス10分の由。【1998年12月7日】リンク切れ確認。「芦岨寺スキー場」はgooで11件ヒット。
  - 芦岨雄山神社境内杉林 (立山町)  
【1997年】「北陸の樹木」のページに見える神社名。北陸の巨木ベスト10の一つがある由。【1998年12月8日】確認。地名の用例はかなりヒットするが、確実な人名用例は未発見。
- 岨 [54-16] 国土1官報3 (地) (詳説) 岨ノ下 (ユリノシタ・京都府) / 『JIS 漢字字典』 人名・地名用例あり
  - 【1997年】「岨ノ下」の例は見えない。
  - 6201312 京都府天田郡三和町岨  
【1998年12月8日】「新郵便番号検索結果 京都府、天田郡三和町」に見える。「岨 [ユリ]」のように読みを注記する例もある。
  - 38 肉用牛と粗飼料生産について 附属牧場 岨 紀男  
【1998年12月8日】京都大学防災研究所の「技術発表一覧」に見える人名。
- 岷 [54-14] 国土1官報8 (地) 沢岷 (タクシ・沖縄県) / 『JIS 漢字字典』 人名・地名用例あり
  - 沖縄県浦添市沢岷

【1997年】沢岷幼稚園のページ。英語名 takushi kindergarten とあり、読みが分かる。【1998年12月8日】確認。

- 峇 [54-20] 国土1 (地) 峇清 (ゴウセイ・山口県) / 『JIS 漢字字典』 人名・地名用例あり
  - 由宇町峇清
    - 【1997年】「湯ったりやまぐち温泉マップ」に見える地名。地図もあり、JR 由宇駅から車で10分の由。読みはなし。goo で1件のみ検索された貴重な用例。
    - 【1998年12月9日】確認。
  - 峇清 [ゴウセイ] 740-1406
    - 【1998年12月9日】郵便番号に対応。ここは読みを明記。玖珂郡由宇町[クガグンユウチョウ]。人名用例は未発見。
- 岷 [54-24] 国土1 (地) 岷迫 (ガイサク・島根県) / 『JIS 漢字字典』 地名用例あり
  - 【1997年】「岷迫」の例は検索できず。
  - 【1998年12月9日】「岷」の用例、発見できず。
- 峪 [54-27] 国土7官報2 (地) 和田峪 (ワダカケ・山口県) / 『JIS 漢字字典』 人名・地名用例あり。
  - 【1997年】「和田峪」の例は検索できず。
  - 常滑市西阿野字阿野峪136番地
    - 【1997年】森下製土(株)の所在地。半田法人会青年部会の一覧に見える。
    - 【1999年9月7日】リンク切れ確認。
  - 小峪
    - 【1997年】「あわくら・武蔵路健康マラソン全国大会」(平成9年3月)20km女子の部23位に見える人名。【1998年12月9日】確認。
  - 014 常滑市西阿野字阿野峪71-4 高讃寺駐車場内
    - 【1998年12月9日】「NTT 東海公衆電話事業部のホームページ」の常滑市の項に見える。『JIS 漢字字典』によれば読みは「アノガケ」。
- 峩 [54-22] 国土7 / 『JIS 漢字字典』 人名用例あり
  - 【1997年】「久峩」の例が、アンケートプレゼント当選者の名簿に見える。
  - 久峩
    - 【1998年12月9日】「宮崎県内曹洞宗参禅道場・参禅会一覧」のページに見える人名。
- 崙 [54-39] 国土1官報2 / 『JIS 漢字字典』 人名・地名用例なし
  - 世界のスター目指して昆崙へ。
    - 【1998年12月9日】「Reiko's HomePage」の「冷蔵庫の中身」に見える。「昆」は「崙」の誤入力。
- 嶮 [54-46] 国土1 (地) (詳説) 嶮 (タオ・岡山県) / 『JIS 漢字字典』 詳説のみ。
  - 【嶮】「たわ、たお、たおり」(国字)「峠」の意味。岡山県の地名に多用され

る。

【1998年12月9日】福田雅史「『風』辞書改訂私案」に見えるが、実際の使用例は未発見。

●嶺 [54-55] 国土1 / 『JIS 漢字字典』 人名用例あり (タカシ)

- 美和村は、昭和31年嶺郷村と檜沢村が合併して誕生しました。

【1998年12月10日】茨城県の北西部に位置する「美和村」の紹介文中に見える。

- 80034602 茨城県 美和村 1995 嶺郷村

【1998年12月10日】「1995年農業センサス新旧市区町村コード表」に見える。

- 和光幼稚園 藤山 嶺園長

【1998年12月10日】石川県私立幼稚園協会のページ、輪島市河井町にある和光幼稚園の紹介に見える人名。

●嶺 [54-51] 国土1 / 『JIS 漢字字典』 人名用例あり (嶺口、嶺本)

- 嶺野 他

【1997年】「JEC 図書資料室蔵書リスト」に見える。「コンクリート工事の段取り (仮設工事ガイドブック2)」(近代図書、1968年)の著者名。

【1998年12月10日】確認。嶺口、嶺本、長嶺の人名用例あり。「長嶺高士」は「新世紀エヴァンゲリオン」の声優でかなりの数がヒットする。

- 永禄年間(一五五八～一五七〇年)の書状の中や差し出し名に、元就は「嶺(かさ)」、長男隆元は「尾崎」という表記がみられる。嶺は本丸を指し、尾崎は城内の隆元の館を指す。

【1998年12月10日】「中国新聞毛利元就」の「『旧本城』に最初の城郭」(96/12/13)に見える。「毛利元就が城主におさまった郡山城(高田郡吉田町吉田)」の説明文中に出現。地名用例。【1999年6月15日】菅原範夫「中世文書に見る地域言語—『毛利家文書』元就・隆元・輝元文書を中心にして—」(国語国文67-5、1999年5月)に言及あり、元就を指す語として問題ないようである。

### 6.3 手部の用例

●抻 [57-27] 国土 / 『JIS 漢字字典』 人名用例あり

- 古今算鑑 乾抻2冊

【1998年12月11日】「和算研究所蔵書一覧」に見える。これはもちろん乾抻を誤ったもの。

- 「抻」(記銘文字)、「押」(干涉文字)の正答率が低い

【1998年12月11日】認知心理学の実験の報告文中に見える。実験のために一定の条件で選び出された漢字。

●擗 [57-43] 国土1 (詳説) / 『JIS 漢字字典』 詳説のみ

- 【1997年】区点位置詳説に見える「擗谷」は検索できない。

- 道土嘉擗によって新たに集められた5人の男女が、ダイ族伝承の戦士「ダイ

レンジャー」となり、平和のために戦う。

【1998年12月12日】『五星戦隊ダイレンジャー』のページに見える。

- 一 子竜中尉 道士・嘉翔の味方で、ゴーマでは数少ない平和主義者。怪力と強力な妖力の持ち主。

【1998年12月12日】これも「五星戦隊ダイレンジャー ゴーマー族 DATA」に見える。そこで、「五星戦隊」「道士」をキーにして検索すると、「中康治(道士嘉翔)」という例が「鹿島かな・情報リスト「かな」ちゃん part 2」のページに見つかった。「中康治」でたどっていくと、「道士 カク／中康治」があり、嘉翔または嘉翔で「カク」と読ませるらしい。【1998年12月19日】「五星戦隊ダイレンジャー」((c) 東映・東映ビデオ、Vol.1～12 及び劇場版、1993年～1994年)のビデオのパッケージに記された配役の一覧には確かに「道士・嘉翔／中康治」と見える。ただし隣の「羽」は常用漢字体。このシリーズは第一話「転身だァァッ」(1993年2月)から第五十話「行くぞォォッ」(1994年2月)までテレビ朝日系列で放送された。劇場版は1993年。【同21日】早稲田大の狩野宏樹さんから岡田斗司夫『オタク学入門』太田出版、1996年)の115ページに「道師・嘉翔」が出ているとのご教示。確かに「上司は道士・嘉翔(かく)、服装もカンフーばい衣装だ。」とある。字体はJISに同じ。

- 掬 [57-54] 国土1 (地) 掬鹿谷 (ハシカダニ・兵庫県) / 『JIS 漢字字典』地名用例あり

- 一 掬鹿谷

【1997年】「播磨の歴史考古行脚 第2部・播磨風土記への誘い」(古書籍 是川文庫のページ) に見える。【1998年12月12日】リンク切れ確認。

- 一 兵庫県加東郡東条町掬鹿谷 56 番地

【1998年12月12日】東条町立東条東小学校のページに見える。JP Postal-Guide にも「掬鹿谷 ハシカダニ」あり。

- 一 「掬角の計」とは、後漢末霊帝の治世の將軍、呂布奉先の使った戦術で、【1998年12月12日】中史公「セラムン三国志」のページ、第四回に見える。

- 掬 [57-62] 国土2 (地) (詳説) ニノ掬 (ニノハバ・秋田県) / 『JIS 漢字字典』地名用例あり

- 一 秋田県上掬(うわはば) 遺跡で発見された「超」大形磨製石斧4本は、【1997年】「縄文文化と東北地方—東北の基礎文化を求めて」のページに見える。

【1998年12月12日】リンク変更。

- 一 掬下清水田

【1998年12月14日】「オウトウ灰星病の多発生と防除について」(秋田県病害虫防除所)のページに見える、十文字町坊主沢の地名。平成9年6月3日付けの「農作物病害虫 発生予察情報」注意報第1号とのこと。

- 掬 [57-56] 国土1 (地) 中掬 (チュウセリ・青森県)

- 一 弾道岩塊を多く含む中掬軽石がその上を覆っている。

【1997年】「十和田湖のフィールドガイド」の「地点7 小坂町神田」の説明

に見える。群馬大学教育学部早川研究室のページ。【1998年12月14日】リンク変更。

- 6300年前の中振(ちゅうせり)噴火では、70億トンのマグマが噴出した。【1998年12月15日】こども群馬大学教育学部早川研究室のページ。読みを明記。早川由紀夫(群馬大学教育学部)さんに問い合わせたところ、次のようなご教示を賜った。

今から6300年前の十和田湖の噴火でとびだした軽石に中振と名前がつけられています。地質学者たちは、研究の便利のために地層に名前をつけます。その地層がもっともよく露出しているところの地名を名前にするのが習わしです。中振軽石は、十和田市大字三本木字中振の地表の下約50cmのところの厚さ50cmほどの黄色い軽石層としてあります。地元では粟砂(あわすな)と呼ばれています。

- 縄文時代の遺物は、そのほとんどがアワズナ(中振浮石)の直下より出土しました。

【1998年12月15日】「平成8年度青森県埋蔵文化財発掘調査報告会」(1996年12月15日)資料(文字部分)のページに見える。ここは「アワズナ(中振浮石)」だが、前記「中振軽石」「あわすな」と同一のものだろう。【1998年12月15日】この他に、人名用例として「水振(モンドリ)」が検索できた。

● 措 [57-66] 国土1 / 『JIS漢字字典』人名・地名用例なし

- 39. ☆プレーキシューの摺動部分、ライニングの摩耗

【1997年】「ユーザ車検への道」のページ、「24ヶ月点検項目」に見える。

- シールの間隙が狭く、しかも摺動抵抗を低減するための特殊な設計・仕様が要求されます。

【1998年12月16日】西川ゴム工業株式会社のページ、自動車関連製品の説明文中の用例。

【1998年12月21日】これは「摺動」の誤入力ではないかと疑ってさがしたところ多くの用例を発見(例略)。

【1998年12月26日】西川ゴム工業株式会社からのご教示によると、「措動」は「摺動」の誤入力、「摺動」は「シュウドウ」と読み、日頃使い慣れていることばとのこと。力学用語であるとも。

- 「措字節用説文長箋(かいじせつようせつもんちょうせん)」

【1999年4月6日】『補訂版国書総目録』(岩波書店)の第二巻、23ページの二段目にあるのをたまたま発見。

● 揃 [58-17] 国土3 (地) 高揃(タカダマ・山形県)

- 山形県天童市大字高揃南

【1997年】天童株式会社の住所。天童ワイン(白)がおすすめ商品。【1998年12月16日】確認。

- 奥羽本線 高揃 たかたま

【1997年】「全国鉄道駅一覧 奥羽本線(99駅)」のページに見える駅名。読

みの3音節目は「たかたま」と清音。【1998年12月16日】確認。この他にも「高揃」の例があるが、天童市以外の例は見あたらず。

## 7 地名用例の増加

現在、調査を開始した1997年の時点から2年を経過している。まずはこの2年間の変化を観察してみたい。以下に掲げるのは、ほぼ2年間で跡付けることのできる例であり、部首順でいうと、人部から木部あたりまでの範囲である。

### 7.1 当初から安定して用例あり

先に掲げた山部と手部所属の漢字では次の例を挙げることができる。

1. 岨 [54-18] 芦岨寺 (アシクラジ・富山県)
2. 岨 [54-14] 沢岨 (タクシ・沖縄県)
3. 峇 [54-20] 峇清 (ゴウセイ・山口県)
4. 岨 [54-27] 阿野岨 (アノガケ・愛知県)
5. 掬 [57-54] 掬鹿谷 (ハシカダニ・兵庫県)
6. 掬 [57-62] 上掬 (ウフハバ・秋田県)
7. 掬 [57-56] 中掬 (チュウセリ・青森県)
8. 揃 [58-17] 高揃 (タカダマ・山形県)

山部と手部以外では次の例がある。

1. 壘 [52-18] 藤壘 (フジスタ・山梨県)
2. 圻 [52-24] 圻 (ガケ・埼玉県)
3. 壘 [52-49] 壘之上 (ママノウエ・静岡県)
4. 壘 [52-60] 壘下 (ママシタ・神奈川県)
5. 嫩 [53-23] 嫩田 (ヨメタ・福島県)
6. 杵 [59-35] 杵沢 (コバサワ・山形県)
7. 杵 [59-66] 杵衝 (ホコツキ・福島県)
8. 杵 [59-55] 杵ノ木谷地 (ハノキヤチ・岩手県)
9. 杵 [37-78] 杵原 (ユスハラ・高知県)
10. 杵 [60-14] 三杵 (ミハエ・宮崎県)
11. 杵 [60-13] 杵川 (タブガワ・鹿児島県)

これらの使用例の存在は、JIS漢字制定に際して地名字を重視したことの妥当性を証明するものとなっている。

### 7.2 当初なくその後安定して使用

山部と手部所属の漢字では次の例を挙げることができる。

1. 岬 [54-16] 岬 (ユリ・京都府)
2. 嶺 [54-55] 嶺郷 (リュウゴウ・茨城県)

山部と手部以外では次の例がある。

1. 埵 [52-34] 埵渡 (ゴミワタリ・青森県)

2. 档 [59-67] 档 (アテ・石川県)

例はさほど多くない。「档」の地名用例は未見であるが、「档」そのものが石川県の県木とのことであり、この字の使用例は多い。これ以外の「岬」「嶺郷」「埵渡」は地名字として今後とも安定して用いられるであろう。

### 7.3 用例の増大の要因

最も大きな要因は、インターネットの普及ということである。これにすべて尽きるといってもよい。これ以外には、1997年2月2日に郵便番号が実施されたこと、地域振興により各地域の情報公開が積極的になったことなどが影響していると考えられる。しかしこれらはインターネットを利用するための情報通信の基盤が整備されてはじめて可能のことであった。

従来の5桁から7桁へ変更した郵便番号は、郵政省が『ぼすたるガイド 郵便番号簿』を配布する他、CD-ROMやインターネットで情報を無償で公開し、その普及に努めた<sup>(2)</sup>。こうした基本的な情報の提供により、特定の地名にだけ使われる JIS 漢字であっても、パソコンで比較的容易に利用できるようになった。具体的には郵便番号からそれに対応する住所を表示することが簡単にできるようになっているのである。

さらに考えてみると、郵便番号に対応する町域をワープロやパソコンでさしたる問題もなく使えるということは、それらに用いられる漢字の大半が既に JIS 漢字に採用されていたことを意味する。情報通信のための基盤整備の重要性を実感させてくれる一事例である。ちなみに、現行の JIS 漢字 (JIS X 0208:1997) で扱うことのできない地名の漢字は、現在開発中の新 JIS 漢字 (第3・第4水準) ですべて対応する予定である<sup>(3)</sup>。

## 8 当初から現在まで使用例なし

上に用例の詳細を掲げた範囲では、岾[54-12]、岾[54-19]、岾[54-24]、岾[54-46]を挙げることができる。「岾」は、本来「岾」とすべき漢字であったのに、作字の際に「山」と「女」とを上下に切り貼りした結果、貼り合わせた際の紙の影が印刷され、それが字画の一部と誤認されたものである (詳しくは JIS X 0208:1997 の区点位置詳説を参照)。「岾」は京都府の地名「広岾町」に用いられていた漢字であるが、現在は「広岾町」に改められており、今後使われる可能性はほとんどない。一方「岾」と「岾」は実際の地名用例があるものであり、いずれインターネットでの使用例も出現するものと期待される。

2年間の推移を調査した範囲 (部首順でいうと、人部から木部まで) において現在まで使用例が見あたらないのは、儼 [49-16]、啗 [51-04]、啗 [51-06]、啗 [51-27]、啗 [51-19]、坩 [52-20]、坩 [52-21]、棚 [52-36]、堙 [52-46]、壘 [52-51]、鼻 [58-83]、初 [59-23] である。

## 9 地名以外の使用例

多くは人名用例である。細かく見れば、次の二つのケースがある。

1. 「国土」を典拠とした地名字であるのに地名以外の用例しか発見できないもの
2. 「国土」を典拠とした地名字であり地名用例とそれ以外の用例が発見できるもの

1は、岩 [54-07] の用例「岩網」(姓)、峩 [54-22] の用例「久峩」(姓) などがある。2は、峪 [54-27] の用例「小峪」(姓)、嶺 [54-55] の用例「嶺」(名) などがある。山部と手部以外では、ペンネームに用いる例などが目立つようだが(例: 仁科<sup>に</sup>栢<sup>か</sup>里)、傾向をいうにはさらに多くの用例が欲しい。

## 10. 誤用例

字形の類似から生ずる誤用例が多い。「古今算鑑 乾坤2冊」の「乾坤」を誤ったことはいうまでもない。この例は誤りであると容易に判断できるものであるが、なかには誤りであることを確認するのが難しい例もある。たとえば、措[57-66]の用例にあげた「措動」という用語がそれである。「措動」は国語辞典はもとより工学系の事典などにも見えず途方にくれていたのであるが、実際に「措動」を使っているWebページの管理者に電子メールで問い合わせた結果、これは「摺動」とすべきところを「措動」と誤って入力してしまった例であることが判明した。「摺動」という用語は、力学関係で比較的良好に使うという情報も得ることができたものである。

ただ、誤用例に関して言えるのは、気付きにくい誤入力が多いということである。たとえば、「祈祷」とすべきを誤って「祈禱」とするなど、見過ごしてしまう例は多い。多くの誤用例を収集し、そのパターンを分析することが必要であろう。

近時、文字コードの議論は盛んであるが、概して使用できる文字を増やす方向に積極的である。その際に、それぞれ文字に対して十分な情報を与えたとしても、誤用例を増大させる危険性は避けられない。

## 11 最後に

以上によって、地名由来のJIS漢字がインターネットで広く使われていることはほぼ実証し得たかと思う。電子テキストだけを調査対象としたこと、gooやinfoseekという検索システムに強く依存する調査方法をとったことなどは、批判があるかもしれない。しかし人文科学の分野においても、電子テキストそのものを自立した研究対象として積極的に評価すべき段階に入っているのであり、本稿をそうした試みの一つとして位置付けたい。

## 注

- (1) 念のため「対応分析結果」に掲載の他の漢字表（内閣調査室収容漢字表、大蔵省主計局収容漢字表など）にあるものは除いた。
- (2) 郵政省のホームページ（[www.postal.mpt.go.jp/newnumber/search.htm](http://www.postal.mpt.go.jp/newnumber/search.htm)）で公開されている。郵便番号は町域（特別区又は市町村区域内の町又は字の区域）を範囲として設定したものであり、小字、通称地名は原則として含まない。郵便番号の漢字については、安岡孝一・安岡素子「ぼすたるガイド'97」に見る辞書にない漢字」（人文科学とコンピュータ 36-1、1997年11月15日、於国際日本文化研究センター、研究発表資料）に詳細な調査がある。
- (3) その最終案は、1999年8月、[jcs.aa.tufs.ac.jp/fdis-an.htm](http://jcs.aa.tufs.ac.jp/fdis-an.htm) で公開された。

（いけだ しょうじゅ・北海道大学文学部助教授）

## 付 記

本稿は、文字・表記研究会（1999年3月29日、国立国語研究所）における口頭発表に基づき、その後の調査・考察を加えてまとめたものである。発表当日の席上、笹原宏之、田中牧郎、芝野耕司、豊島正之の諸氏からご意見・ご教示を賜った。記して感謝申し上げる。